



いずみさの昔と今 第256回

「泉佐野の遺跡〜檀波羅蜜寺跡〜」

檀波羅蜜寺は正和5（1331）年の「日根荘日根野村荒野開発絵図」に描かれた寺院で、九条家とも縁の深い寺院と考えられています。絵図や文献から中近世に存在した寺院と考えられています。近世の絵図では地域の北東部に位置し、熊野街道をはさんで描かれています。また伽藍（がらん・寺院の敷地と建物）の中に池なども描かれ、苑池などがあったのかも知れません。13世紀前半の「日根庄諸村田畠在家等注文案」などの文献によれば、かつて日根野村内に檀波羅蜜池があり、当寺が水田開発や経営に関わっていた事情がうかがえます。

檀波羅蜜寺の所在地は、「檀波羅」や「大門」などの小字名が残ることから、泉佐野市中庄の西部、市場との境界付近にある小さい丘陵の緩斜面と推定されていますが、実態はよくわからないままです。その具体的な様相は、昭和47年以降、複数回にわたって実施された発掘調査によって、ようやく知られるようになりまし。調査では築地堀と推定される遺構や溝、池、井戸などの遺構が検出されています。なかでも大量の瓦を出土した溝遺構から、頭塔（ずとう）

土を積んで作った瓦葺きの低い塔）などの仏教施設が存在が推定されています。また上町遺跡、若宮遺跡、湊遺跡など、その周辺の遺跡からは多数の瓦が見つかっています。なかには「檀波羅」や「蜜寺」などの線刻や刻印のある瓦もあって、当時との密接な関連を示しています。その多くには焼けた跡があり、当寺が火災で焼失したことは間違いないようです。調査地内で明確な建築物の跡などは見つかっていないので、主要伽藍の外れにあたるのかも知れません。また当寺の南西にあたる丘陵地帯では複数の土壇墓が検出されており、寺院に伴う小規模な墓地が形成されていた可能性がります。

未調査部分もあるので断定はできませんが、これまでの調査結果を総合すると、伽藍は東西約120m、南北約90mの規模とされています。遺物として、瓦などのほか、瓦器、土師器瓦質土器、羽釜など国内産の日常雑器や、輸入陶磁器が多数出土しました。その器種構成は一般集落と異なるといわれています。時期は室町時代前半、およそ14〜15世紀のものが中心になります。また当寺が廃絶したの

ち、本尊の観音像は熊取町の慈照寺に安置されていると伝わりま。

4月15日(土)から開催の春季特別展では、「泉佐野の遺跡」と題して、これまで市内で実施された発掘調査による代表的な考古学的成果を公開します。ここで取り上げた檀波羅蜜寺に関する遺物も展示します。



▲文字瓦・梵字瓦(湊遺跡)

【お詫びと訂正】

広報2月号20ページの「いずみさの昔と今」本文18行目に誤りがありました。正しくは「明治16年に篤農家の今井佐治平、大門久三郎、道浦吉平が坂口宅に集まった際、」です。お詫びして訂正いたします。

レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさの
☎469-7140 Fax469-7141
休館日 月曜日、祝日（祝日が月曜日の場合はその翌日、日曜日の場合はその翌々日）
開館時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
入館料 無料

土曜れきし館ワークショップ おどろき盤をつくろう！

アニメーションのもとになっているおもちゃ「おどろき盤（フェナキストスコープ）」をつくろう。円盤をくるくる回すと絵が動いているように見えるよ！

日時 4月15日(土) 午後2時～3時30分（最終受付）

定員 15人（先着順）

場所・問合先 レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさの

※申込不要、参加無料。未就学児は保護者と一緒に参加してください。



春季特別展 泉佐野の遺跡

泉佐野市は古くから人々の生活の場となっていました。段丘面の上を中心に多くの遺跡が存在し、その時代も旧石器時代から中近世まで広範囲に及んでいます。これらの遺跡と発掘された出土遺物について時代順に展示し、また空港連絡道の発掘調査などによって姿を現した、日根荘関連の遺跡も紹介します。

開催日 4月15日(土)～7月9日(日)

時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

場所・問合先 レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさの ※入館無料



▶檀波羅蜜寺跡の溝の中から出土した大量の屋根瓦